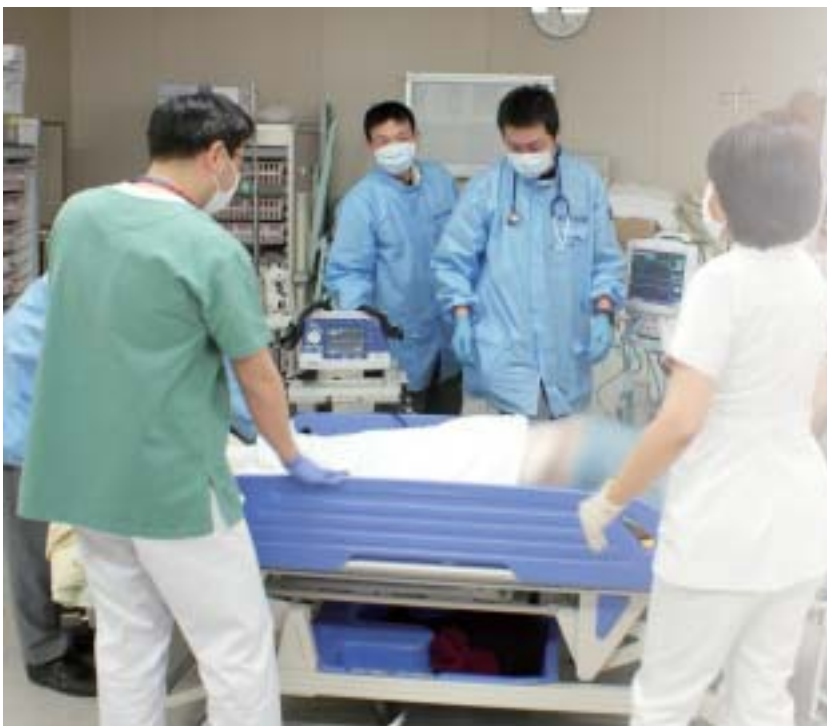


—市立病院と救急隊の連携が、草加市の救急医療を支えています—

救急医療の充実への取り組み

市立病院は、二次救急医療機関として、入院が必要な重症患者さんを中心に、高度で専門的な医療を24時間体制で提供する役割を担っています。そのため、意識障害や胸痛、吐血など生命の危険にさらされた患者さんの救急受入の強化を病院の最重要課題として取り組んできました。しかし、実際の救急医療は病院内だけで行われるものではなく、119番通報された現場から始まっています。

今回は市立病院と草加市消防本部の連携による救急医療の充実への取り組みについてご紹介します。



病院前救護

救急隊が119番通報を受けてから医師に引き継ぐまでの活動を「病院前救護」と言います。その活動内容としては、①病人やけが人を救急車に収容する。②救急車を呼んだ理由や症状、血圧・体温などを確認し、疑われる病気やけがに対応できる病院に搬送する。③止血処置や骨折が疑わしい部位の固定、心肺停止（呼吸や脈が無いこと）の場合には胸骨圧迫や人工呼吸などの救命処置を行う、などがあります。

「単純な仕事じゃないか」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、実はこの病院前救護の良し悪しが病院での医療の質を左右します。救急隊が適切に患者さんの話を聞き、身体を診て来てくれると、病院ではその部分を省略して次の検査や治療に進むことができます。患者さんにより早く治療を受けていただくことができるとともに、次の救急車を受け入れる余裕が生まれます。

のみならず、病院にとっても宝です。市立病院と草加市消防本部では、日頃から協力して救急医療に対するスキルアップを図っています。

講習会や勉強会、共同研究

病院前救護では、交通事故などの外傷や心筋梗塞、脳卒中の患者さんに対して、一定の診察・処置の手順があります。その内容を病院側が理解し共有するために、講習会を年に数回開催しています。半年間かけて準備し、1日みっちり実習をします。講習会での指導は、厳しい認定審査を合格した救急隊員によって行われます。

また、救急搬送された患者さんの中で、経験と知識を深めてもらいたい症例を集めて勉強会を開いています。草加市以外の救急隊員も参加しています。

さらに、研究事業や学会発表も行っています。平成21年には救急振興財団の助成を受けて、救急隊員が認められていない血糖値測定を可能にするためのプログラムを開発しました。学会発表も救急医療の分野は共同で行っています。



病院前血糖値測定講習会

マラソン大会 救護

平成21年から始まった草加ふささらハーフマラソン大会（今年度は草加松原太鼓橋ロードレース大会）では、市役所・消防・市立病院が協力して総勢約30名の救護体制をつくり、AEDやマウンテンバイク隊を配備してけが



麻酔科医の指導による気管挿管実習

救急救命士教育

病院前救護の中に、呼吸をしていない人に高度な気道確保を行う「気管挿管」、心臓が止まった人に薬を注射する「薬剤投与」があります。一旦止まった心臓が再び動き始める確率は時間の経過とともに下がると言われ、救急隊員がこれらの救命処置を行うことは大変重要です。ただし、何か月にも及ぶ講習と実習を経て、厚生労働省に認められた救急救命士しか行うことができません。

市立病院では、麻酔科医師指導のもと、気管挿管実習生を受け入れていきます。患者さんの安全を最優先に、30症例以上の経験を積みみます。必ず指導医が同席して、患者さんから同意をいただいで実施しています。当院では平成24年3月までに16名が修了し、確かな技術を持って現場で活躍しています。

また、救急救命士は2年ごとに128時間の病院実習が義務

より良い救急医療の提供を

草加市消防本部 岩間和利

救急隊が担う病院前救護では、素早く正確に状態を把握したうえで、適切な処置を行うことが求められています。特に心肺停止状態の傷病者に対する気管挿管や薬剤投与は、高度な技術や知識を要します。緊急時にこうした手技を適切に行うため、私たち救急救命士は日々のトレーニングを欠かすことはできません。

技術向上のための研修や勉強会は、市立病院との合同でも行われており、経験豊富な医師からの貴重なアドバイスは、救急の現場でも活かされています。

救急ステーションの開所により、市立病院との連携を今まで以上に密にし、より質の高い救急医療を市民の皆さんに提供できるよう、これからも努力していきます。



私達も頑張ります

市立病院救急科部長 南 和

昨年の震災で私達は、これから何十年も続くはずの幸せな人生が突然奪われてしまう悲しみや辛さを経験しました。救急医療に携わる私共も、改めて大切な命を守るため努力することを誓いました。

市立病院では心臓・脳血管センターが開院し、より重症な患者さんへの治療が充実します。一つの命を救うには、たくさんの人と集中力が必要です。そのため、診察を希望されても、残念ながら、全ての患者さんを受け入れることは不可能です。「高度な医療よりも、時間外に何でも診てくれる救急が良い」と思われるかもしれません。

しかし、みなさんのご理解ご協力は、必ず誰かの幸せに役立っています。私達も頑張ります。今後ともよろしくお願いいたします。



一人でも多くの命を救うために

救急医療に携わる者はみな一分一秒を大切に、かけがえのない命と向き合っています。今後も市立病院は消防本部と協力して努力し続けて行きます。

付けられています。市立病院では救急ステーションが設置され、受入体制が整ったことから、病院実習を5月から開始します。医師や看護師とともに救急外来などで活動することになります。救急救命士の技術向上のため、ご協力をお願いします。